

自動車、住宅関連指標とも増加

銅輸出減少、輸入は電気銅が増加

橋本金属 アルミ 橋本健一郎氏リポート①

■概況

十月前半は中国の九月の銅輸入が一六・七％増の四五万七、八四七トンと昨年五月以来の高水準だったことに加え、九月の米ADP雇用者数が事前予測を下回ったことや米ISM非製造業景気指数五四・四と予測の五七を下回ったことなど金融緩和継続に関するプラス材料もあり、アメリカ財政問題による資金移動から金属は上昇する場面はあったが、やはり米国のデフォルト問題は大きくLME銅相場は小幅下落、七、二〇六ドル(セツル)と前月最終価格より四六ドル下げたの前半締めとなった。

後半は十月のユーロ圏総合PMI速報値が五一・五に低下、予想の五一・五を下回ったこと、中国当局の金融引き締め観測や中国の不動産抑制策などのマイナス材料はあったが、米週間新規失業保険申請件数は三五・八万件に減少、予想の三三・五万件を上回ったこと、九月の米雇用統計で失業率は七・二％と改善したもの、非農業雇用者数が一四万八千人と予測の一八万人を大幅下回ったことによる金融緩和継続期待から上昇、十一月一日現在、前半締めから二五ドル上昇の七、二三四ドル、銅建値は七五万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一三・三％増の八七万三、六二三台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一七・七％増の二六万四、五八七台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一九・四％増の八万八、五三九戸であった。

◆貿易関連指標

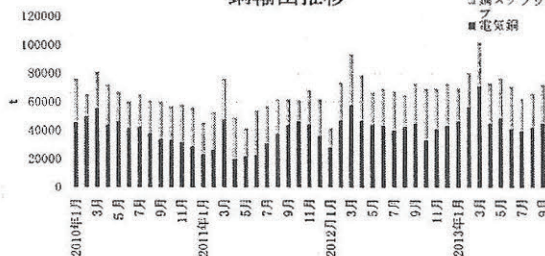
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が〇・五％減の四万四、八五一t、スクラップが一・九％減の二万七、三〇五t。

輸入は電気銅が前年比一三・七％増の二、六

七九t、スクラップ二九％減の五、二八一t。

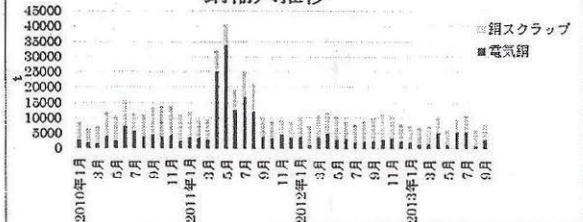
輸出	7月	8月	9月
電気銅	3万9694 t	4万2008 t	4万4851 t
前年比	-0.7%	-1.7%	-0.5%
スクラップ	2万2602 t	2万3868 t	2万7305 t
前年比	-17%	+6.9%	-1.9%
輸入推移			

銅輸出推移



輸入	7月	8月	9月
電気銅	5287 t	901 t	2679 t
前年比	+151%	-63.3%	+13.7%
スクラップ	5765 t	5240 t	5281 t
前年比	-1.4%	-22.6%	-29.7%
輸入推移			

銅輸入推移



■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比四・五％増の六万六、五四〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は前年比三・八％増の五万九、九〇〇tであった。(六面へ続く)

国内の
銅需給
今後供給不足が拡大の可能性も

(四面より続く)

海外銅相場、狭いレンジで推移か

続増加、前年比一九・四％増(季節調整済み前月比八・八％増)の八万八、五三九戸。今月も堅調な住宅関連。持家一四％増、貸家二一・五％増、分譲住宅二三・五％増と大幅増。消費税導入前の駆け込み需要から。

伸銅品生産量は前年比四・五％増の六万六、五四〇tと三カ月連続前年を上回る。輸出は円安を追い風に六カ月連続前年プラスの一二・二％増。

銅電線出荷量は、前年比三・八％増の五万九、九〇〇トン。うち、国内三・四％増、輸出が一九・九％増。通信〇・五％増、電力四・八％減、電気機械一・四％増、自動車一〇・一％増、建設電版一〇％増。

銅の輸出に関しては、電気銅輸出が前年比〇・五％減の四万四、八五一t。銅スクラップも一・九％減の二万七、三〇五t。円安で輸出環境であるものの好調な国内生産を背景に国内需要家も原料手当てを急いだため、輸出は減少した。

輸入は電気銅が一三・七％増の二、六七九t。スクラップは二九％減の五、二八一t。内需の好調から電気銅の輸入が増加したとの見解。

【銅需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一九・四％増と一三カ月連続増加、持家一四％増、貸家二一・五％増、分譲住宅二三・五％増と大幅増。

待望の自動車は生産が一三カ月ぶりの一三％増。さらに九月の国内販売台数が前年比一一・四％と大幅増。予測の通り販売増にられて生産が増加。

住宅、自動車の二本柱が復活し今後供給不足が拡大する可能性が高い。

【銅価格に関して】

今月は米FRRB金融緩和縮小開始と米経済指標に左右される。先月に続き金融緩和縮小も発言が二転三転しておりマーケットも若干織り込み済み。新規材料難の中、狭いレンジで動くのでは。それらを踏まえた銅価格は十後半高値付近の七、三〇〇ドルを予測。

下値はFRBによる金融緩和縮小開始が起った場合、十後半安値の七、一〇〇ドルを予測。

為替は新規材料難の中金融緩和縮小開始があればドル高になるものの織り込み済みとの予測から前月と変わらず、Ave九八円との予測。

銅建値に関しては七三〇〇〜七五〇〇円程度と予測している。

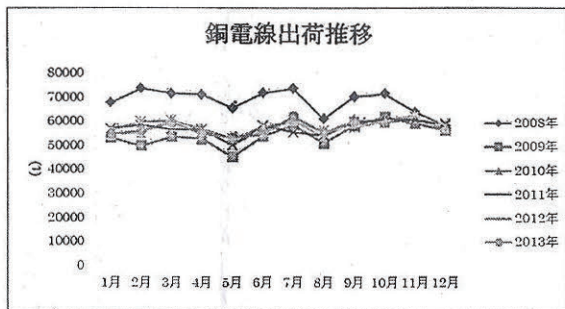
■見通し

十月は、アメリカ債務引き上げ問題と中国の金融引き締め観測に一喜一憂した月となった。

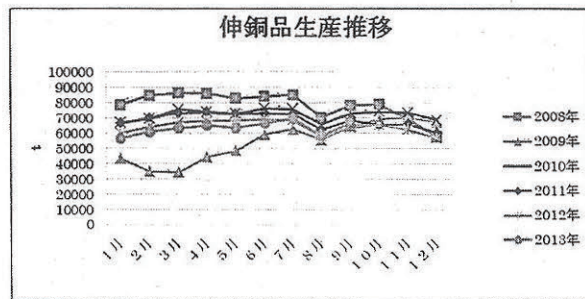
自動車生産は前年比一三％増と一三カ月ぶりプラス。乗用車一二・七％増、トラック一五・七％増、バス七％増。

販売の方は二カ月連続前年超えの前年比一七・三％増。乗用車一八・六％増、貨物八・八％増、バス二二・四％増。

新設住宅着工戸数は先月に続き一三カ月連



出典 日本電線工業会



出典 日本伸銅協会